



大札奉祝唱歌

(大正四年文部省制定)

一、天地のむた窮なき

天津日嗣の御位に

我が大君ののほります

今日の御典の尊さよ

二、垂穂の稲の大御饌に

白酒黒酒を取りそへて

皇御神にささげます

大御祭のかしこさよ

三、大き正しき君が代の

大御祝に外国の

つかはし人も列りて

共にことほぐめでたさよ

2 《白薩摩大札奉祝唱歌浮彫花瓶》 一点

大正四年(一九一五)頃

陶磁

高四五・四 径二八・三

口から肩にかけてややすばまり、下部が末広がりとなる撥高台が付いた下蕪形の薩摩焼花瓶。白薩摩特有の白い素地に上絵付けをせず彫刻のみがほとんどで、一部に金彩の線が引かれている。胴部に浮き彫りされた文字は大正の大札奉祝唱歌で、肩には四箇所にわけて「大正萬歳」の文字が一字ずつ浮き彫りされている。一段彫り下げられた大札奉祝唱歌の周囲には銅鏡や勾玉、管玉、その下には円形に麒麟と鳳凰の浮彫がそれぞれ交互に四箇所に配されている。皇室へ納められた経緯や製作者の詳細は明らかでないが、高台内に「薩摩輝彦」の描銘があることから、沈壽官窯や慶田窯の透彫の名手として知られた上原熊次の弟で、兄から彫刻技術を学んだ上原輝彦である可能性が考えられる。大札奉祝唱歌は、大正四年(一九一五)四月に文部省がまず歌詞を全国に公募し、二千五百五十七篇の応募のなかから審査を経て決定した。次いで、その歌詞に基づいて同年七月に楽譜が公募され、一千六百二十九曲のなかから審査を経て、最終的に同年九月二十三日に高田早苗文部大臣より選定の結果が告示された。完成した大札奉祝唱歌は、印刷局によって楽譜四万部が印刷されて全国の学校に配布され、即位礼当日に各学校の式場において合唱された。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

大礼 ― 慶祝のかたち

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 85

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 公益財団法人 菊葉文化協会

令和元年九月二十一日発行

©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan